

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/11/06

各国で政治への不安も

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	RBAの政策スタンスに注目 予想レンジ: 85.500~ 89.750円	2-3
NZドル/円	➡	9年ぶり政権交代 予想レンジ: 75.500~80.100円	4-5
ランド/円	➡	三角もち合い下抜け 予想レンジ: 7.600~8.300円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



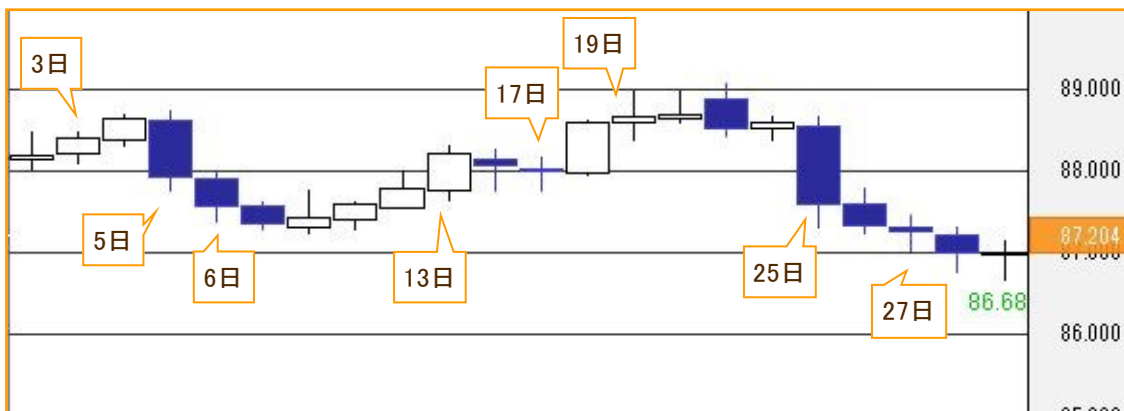
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 10月の推移

AUD/JPY

10月の豪ドル/円相場は86.689~89.067円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の下落(豪ドル安・円高)となった。世界的な株高や資源価格の上昇を背景にリスク選好ムードが広がる中、上中旬は堅調に推移。北朝鮮が挑発行動を控えた事も市場心理の改善に繋がり、23日には約1カ月ぶりに89円台を回復した。ただ、豪7-9月期消費者物価指数が予想を下回る伸びにとどまり、近い将来の利上げ期待が剥落。さらには、豪副首相が二重国籍問題で失職した事により、政局に不透明感が生じたため、月末にかけて豪ドル安に振れた。



四本値

OPEN	88.154
HIGH	89.067
LOW	86.689
CLOSE	87.010

3日	豪中銀(RBA)は予想通りに政策金利(1.50%)の据え置きを発表。声明では、「政策スタンスを変更しない事が経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」「低水準の政策金利が豪経済を引き続き支えている」として現状維持の姿勢を強調。また、「為替レートの上昇は引き続き経済における物価圧力の抑制に寄与すると予想される」「為替の上昇が現在の見通しよりも経済活動やインフレを鈍化させると予想」として通貨高をけん制した。前回の声明とほぼ同様の内容だったが、市場の一部には将来的な利上げを示唆するなどのタカ派化への期待があったと見られ、RBA声明の発表後には一時豪ドル売りが優勢となった。しかし、NY市場ではパウエル米連邦準備制度理事会(FRB)理事が次期FRB議長に昇格するとの思惑などからドル安と株高が進む中、豪ドルが買われた。
5日	豪8月貿易収支は9.89億豪ドルの黒字となり、黒字額が予想(8.50億豪ドル)を上回った。一方、豪8月小売売上高は前月比-0.6%と、予想(+0.3%)に反して減少した。豪ドルは小売売上高の減少を重く見て売りが強まった。
6日	ハーバーRBA理事が「利下げの可能性を否定しない」と発言した事を受けて豪ドルが売られる場面があった。
13日	中国9月貿易収支は284.7億ドルの黒字となり、黒字額は予想(380億ドル)を下回ったが、輸入が前年比+18.7%と急拡大(8月+13.4%)していた事もあって、豪ドル相場にネガティブな反応は見られなかった。
17日	RBAが10月理事会の議事録を公表。前回から目立った変更点は少なかったが、「豪ドルのさらなる『大幅』上昇は、成長・インフレ鈍化につながる可能性がある」などとした事を受けて一時豪ドル買いが強まる場面があった。豪ドル高について「大幅」という表現を用いた事で、通貨高に対する警戒姿勢が和らいだと受け止められた模様。
19日	豪9月雇用統計は失業率5.5%、就業者数1.98万人増と予想(5.6%、1.50万人増)より良好な結果であった。これを受けて豪ドル/円は買いが優勢となった。なお、中国7-9月期国内総生産(GDP)は前年比+6.8%で市場予想通りの結果であった。
25日	豪7-9月期消費者物価指数は前年比+1.8%と予想(+2.0%)に反して前回(+1.9%)から伸びが鈍化。RBAが注目する基調インフレ率も前年比+1.85%と、市場予想(2.0%)を下回った。これを受けてRBAの利上げ観測が後退するとともに豪ドル売りが強まった。
27日	豪高等裁判所は、二重国籍を保持していたジョイス副首相の下院当選は無効だとする判決を下した。わずか1議席差で過半数を得ていた与党は、副首相の失職により過半数を失う事になった。これを受けて一時豪ドル売りが強まった。ただし、ジョイス氏は8月にNZ国籍を放棄しており、補欠選挙で再選される可能性がある。このため、豪ドルは下げ渋った。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	20400.51
HIGH	22086.88
LOW	20363.28
CLOSE	22011.61

NYダウ平均

OPEN	22423.47
HIGH	23485.25
LOW	22416.00
CLOSE	23377.24

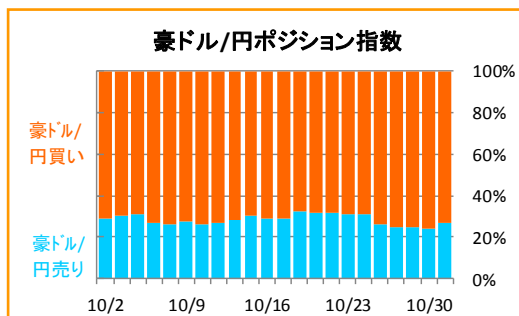
上海総合指数

OPEN	3403.246
HIGH	3421.103
LOW	3357.276
CLOSE	3393.342

豪10年債利回

OPEN	2.839%
HIGH	2.862%
LOW	2.665%
CLOSE	2.669%

10月のポジション動向



11月の豪州・中国の注目材料

- ・9月豪貿易収支(2日)
- ・9月豪住宅建設許可件数(2日)
- ・9月豪小売売上高(3日)
- ・RBA政策金利発表(7日)
- ・10月中国貿易収支(8日)
- ・9月豪住宅ローン件数(9日)
- ・10月中国消費者物価指数(9日)
- ・RBA四半期金融政策報告(10日)
- ・10月中国鉱工業生産(14日)
- ・10月豪雇用統計(16日)
- ・RBA議事録(21日)
- ・10月豪住宅建設許可件数(30日)
- ・11月中国製造業PMI(30日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

10月の豪ドル/円は、リスク・オンの波に乗り損ねた。インフレ率の鈍化を受けて豪中銀(RBA)が利上げに動く時期が後ずれするとの見方が広がっており、世界的な株高という好環境下でも豪ドル買いの機運は高まらなかった。豪7-9月期消費者物価指数(10月25日)の発表前は、2018年6月までに利上げ(0.25%)が行われる確率が50%近くに上っていたが、11月3日時点では25%を切っている。豪州はインフレは弱めだが景気は良好との見方が一般的であったが、3日に発表された豪9月小売売上高は前月比で横ばいにとどまった。豪小売売上高は7月、8月と連続で減少していただけに、失望的な結果であり利上げ期待が一層後退する事になった。もっとも、ハーパーRBA理事が10月6日に発言した「利下げ」の可能性については、現段階では極めて低いと見て良いだろう。足元の豪ドル下落が、インフレ率を押し上げる可能性もあるため、RBAは様子見姿勢を続ける公算が大きいと見る。11月の豪ドル相場は、7日の政策金利発表や10日の四半期金融政策報告、21日の議事録公表など、RBA絡みのイベントが最も注目されそうだ。なお、豪副首相の失職にともなう補欠選挙は12月2日に行われる予定だ。11月後半には再び政治に焦点が当たる可能性もある。(神田)

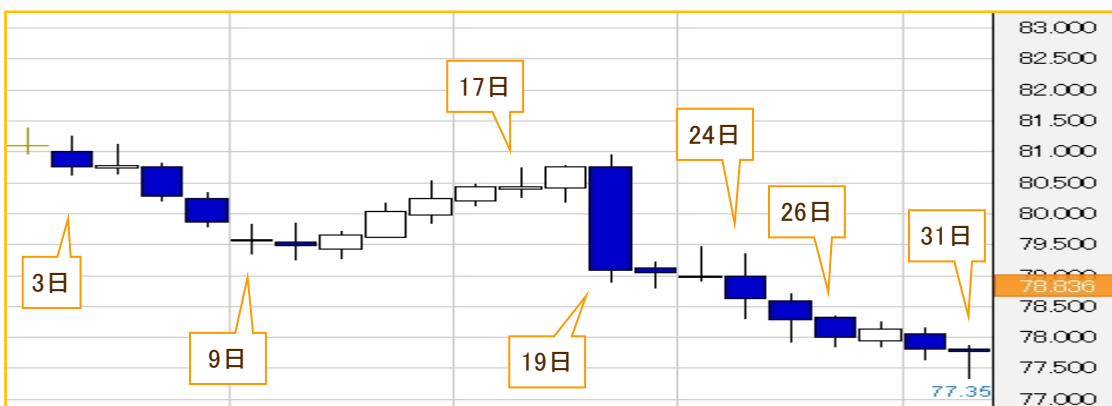
(予想: 85.500~89.750円)

NZドル/円 10月の推移

NZD/JPY

10月のNZドル/円相場は77.353～81.394円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.1%の下落(NZドル安・円高)となった。

先月実施されたNZ総選挙の最終結果が判明するも単独で過半数を獲得した政党がなかったことから、連立政権樹立を模索する動きとなった。19日に大衆迎合的なNZファースト党が労働党と緑の党の連立政権に参加することが決定して9年ぶりの政権交代が実現すると、市場は新政権に対する不透明感からNZドル売りで反応した。根強い米年内利上げ観測を背景にドルが資源国や新興国通貨に対して強含んだ事も重しとなり、31日に2017年5月以来となる77.30円台まで一段安となった。



四本値

OPEN	81.114
HIGH	81.394
LOW	77.353
CLOSE	77.788

3日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札は前回比-2.4%と、約半年振りの大幅な落ち込みとなった。
9日	前日8日にNZ総選挙の最終結果が明らかとなり、与党・国民党と最大野党・労働党がいずれも過半数を獲得できなかった。不透明な政局を嫌気してNZドルは売り優勢でスタートした。
17日	NZ7-9月期消費者物価指数が前期比+0.5%、前年比+1.9%と予想(+0.4%、+1.8%)を上回った事を受けて80.757円まで上昇するも、その後日経平均の上げ幅縮小もあり、80.20円台まで反落した。
19日	NZファースト党が労働党と緑の党の連立政権樹立で合意。政権交代による不透明感や、NZ中銀に対する圧力(労働党: 中銀の責務に雇用目標を追加、NZファースト党: 為替介入の増加)が増すとの見方などが嫌気され、NZドルが急落した。
24日	NZ労働党のアーダーン党首が「連邦銀行法を再検討し、改定する予定」と発言。政府による中銀の金融政策への介入を嫌気してNZドル売りが優勢となった。
26日	NZ9月貿易収支は11.43億NZドルの赤字(予想:9.00億NZドルの赤字)であった。
31日	NZ政府は海外投資法を改正し、外国人による中古住宅購入を禁止する方針を発表した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	20400.51
HIGH	22086.88
LOW	20363.28
CLOSE	22011.61

NYダウ平均

OPEN	22423.47
HIGH	23485.25
LOW	22416.00
CLOSE	23377.24

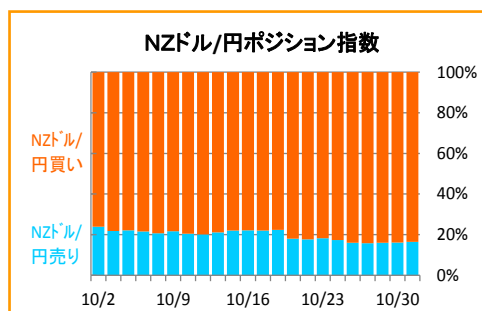
上海総合指数

OPEN	3403.246
HIGH	3421.103
LOW	3357.276
CLOSE	3393.342

NZ10年債利回り

OPEN	2.969%
HIGH	3.044%
LOW	2.891%
CLOSE	2.915%

10月のポジション動向



11月のNZの注目材料

- ・7-9月期NZ失業業率(1日)
- ・7-9月期NZ生産者物価指数 (16日)
- ・RBNZインフレ予想(6日)
- ・10月NZ貿易収支(24日)
- ・NZフォンテラ入札(7日、21日)
- ・9月NZ住宅建設許可(30日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート (8日)
- ・7-9月期NZ小売売上高指数(13日)
- ・10月NZ企業景況感(PMI、16日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月の見通し

NZの新首相であるアーダーン氏は37歳と若さが目立つが、閣僚経験がなく政治的实力は未知数である。また、新政権の経済や財政の舵取りに対する不透明感もあり、NZドルは当面の間上値の重い展開を強いられる可能性がある。新政権発足により、NZ中銀の金融政策の目標変更(従来のインフレターゲットのほか、新たに雇用目標を加える)や、外部メンバー登用による合議制導入などが導入されるとの見方もある。また、NZファースト党の影響が強くなるようならば、NZドル安誘導政策の導入もありえる。いずれにせよ、RBNZの金融政策の転機となる事は間違いなさそうだ。当面はNZ国内の政局に左右されやすい展開が予想される。

なお、8日RBNZオフィシャル・キャッシュレートについて、NZ国内の政局に不透明感が残る事や、直近のインフレ率がRBNZのインフレ目標(年1~3%)の中央値に届いていない事などから、政策金利を変更する可能性は小さいだろう。現在はスペンサー副総裁が総裁を代行(次期総裁は来年3月に決定予定)している事も、現状維持の予想を後押ししそうだ。(川畑)

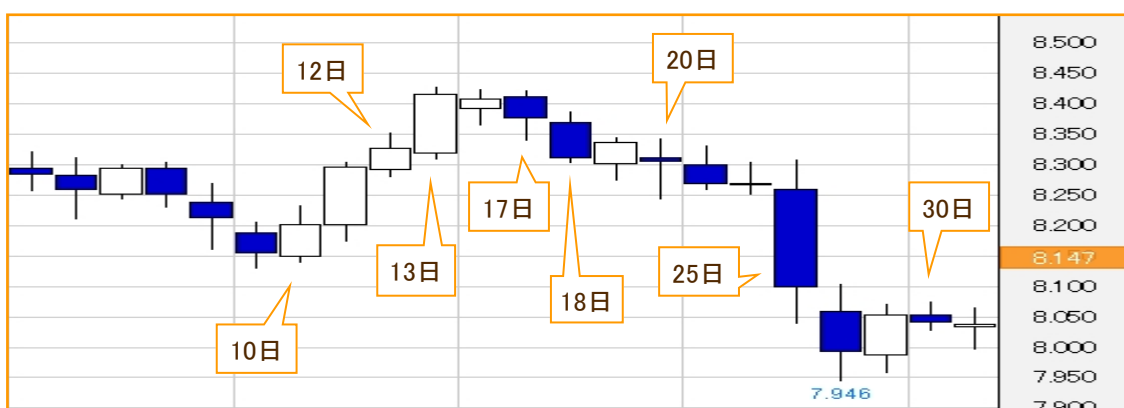
(予想レンジ: 75.500~80.100円)

ZAR/JPY

ランド/円 10月の推移

10月のランド/円相場は7.946～8.428円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.0%の下落(ランド安・円高)となった。

世界的な株高による「リスク・オン」の流れに乗って13日に8.40円台まで上昇するも伸び悩み。その後はズマ大統領の内閣改造を嫌気してランド売りが優勢となった。南アフリカの予算演説で財政赤字見通しの対国民総生産(GDP)比率が引き上げられた事から、同国の格下げ懸念が再浮上した事もランド売りに拍車を掛け、26日に2017年4月以来の安値となる7.90円台まで一段安となった。米年内利上げ期待を背景として、新興国や資源国通貨を中心にドル高が進行した事も、ランド相場の重しとなった。



四本値

OPEN	8.296
HIGH	8.428
LOW	7.946
CLOSE	8.038

10日	国際通貨基金(IMF)は南アの経済成長率見通しについて、17年が+0.7%、18年は+1.1%と、7月時点(+1.0%、+1.2%)から下方修正した。
12日	クガニャゴ南ア中銀(SARB)総裁が「南ア成長見通しのリスクは下向き」「ランドだけがインフレ押し上げ要因ではない」などと発言した。
13日	南アフリカの最高控訴裁判所は、ズマ大統領に対する汚職訴訟を復活させるという高裁判決を支持した。国民の信任が低く、春以降の経済混乱の元凶である大統領の更迭期待から、ランド買いが優勢となった。
17日	ミネルSARB副総裁が「インフレ見通しのリスクがアップサイドとなる中、中銀は金融政策に慎重なアプローチを取っている」と追加利下げに慎重な見方を示した。しかし、その後ズマ大統領が内閣改造を発表し、同大統領の汚職疑惑での批判勢力を放逐した事が明らかとなると、ランド売りが優勢となった。
18日	南ア9月消費者物価指数は、前年比+5.1%と予想(+5.0%)を上回った。また、8月小売売上高は前年比+5.5%と予想(+2.7%)を大きく上回った。
20日	「南ア国家検察局は、ズマ大統領に汚職容疑に対する異議申し立ての期限を11月30日までとする事を発表」と、一部で報じられた。
25日	南アのギガバ財務相は予算演説で、2017年度の財政赤字見通しの対GDP比率を、従来の3.1%から4.3%に引き上げた。また、GDP見通しは従来の+1.3%から+0.7%に下方修正すると発表した。これらを嫌気してランド売りが優勢となった。
30日	格付け会社ムーディーズが、25日の予算演説について、信用格付けにはマイナスとの見方を示した。これにより、同社の南ア国債の格付けが投機的等級に転落する恐れが出てきた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	20400.51
HIGH	22086.88
LOW	20363.28
CLOSE	22011.61

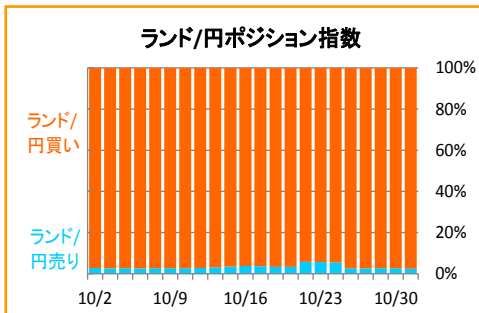
NYダウ平均

OPEN	22423.47
HIGH	23485.25
LOW	22416.00
CLOSE	23377.24

N Y 金

OPEN	1282.20
HIGH	1308.40
LOW	1262.80
CLOSE	1270.50

10月のポジション動向



11月の南アフリカの注目材料

- ・9月南ア小売売上高(15日)
- ・10月南ア消費者物価指数(22日)
- ・SARB政策金利発表(23日)
- ・10月南ア貿易収支(30日)
- ・10月南ア生産者物価指数(30日)
- ・ズマ大統領の汚職容疑に対する異議申し立ての期限(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月の見通し

ランド/円は今年春以降週足で三角もち合いを形成していたが、10月後半に下抜けると7.90円台まで下落して4月に付けた年初来安値(7.895円)に接近。その後やや値を戻したがもち合い下限付近で反落しており、相場は下落トレンドに入った可能性が高そうだ。このまま年初来安値を更新するようならば、週足の一目均衡表の雲下限(12月上旬までは7.617円)に向けた一段安もあるだろう。なお、中長期のメドとして、三角もち合いの高さをもち合い下限を下抜けた地点から引いた値(7.10円前後)が挙げられる。

ファンダメンタルズ面では、格下げ懸念が再浮上している事が重しとなりそう。12月に与党アフリカ民族会議(ANC)総裁選もあり、政局不透明感が強い。今後、フィッチに続きS&Pやムーディーズも同国国債を投機的格付けに変更するような事があれば、海外資本の逃避に伴うランド売りが強まる恐れがある。

なお、23日に今年最後となる南ア中銀(SARB)の政策金利発表が予定されている。先月12-18日にブルームバーグが実施したエコノミスト調査によると、半数強が0.25%利下げを予想している。前回9月は市場予想に反して金利据え置きとなったが、足元の経済指標を見ると、一時的に中銀目標レンジ(年3~6%)を上回っていたインフレ率がレンジ内に回帰した事や、低成長が続いている事などから、今回は利下げの可能性が高いと見たほうが良さそうである。(川畑)

(予想レンジ:7.600~8.300円)